

2023年12月期第2四半期

決算説明資料

木徳神糧株式会社



2023年12月期第2四半期 連結業績の概況

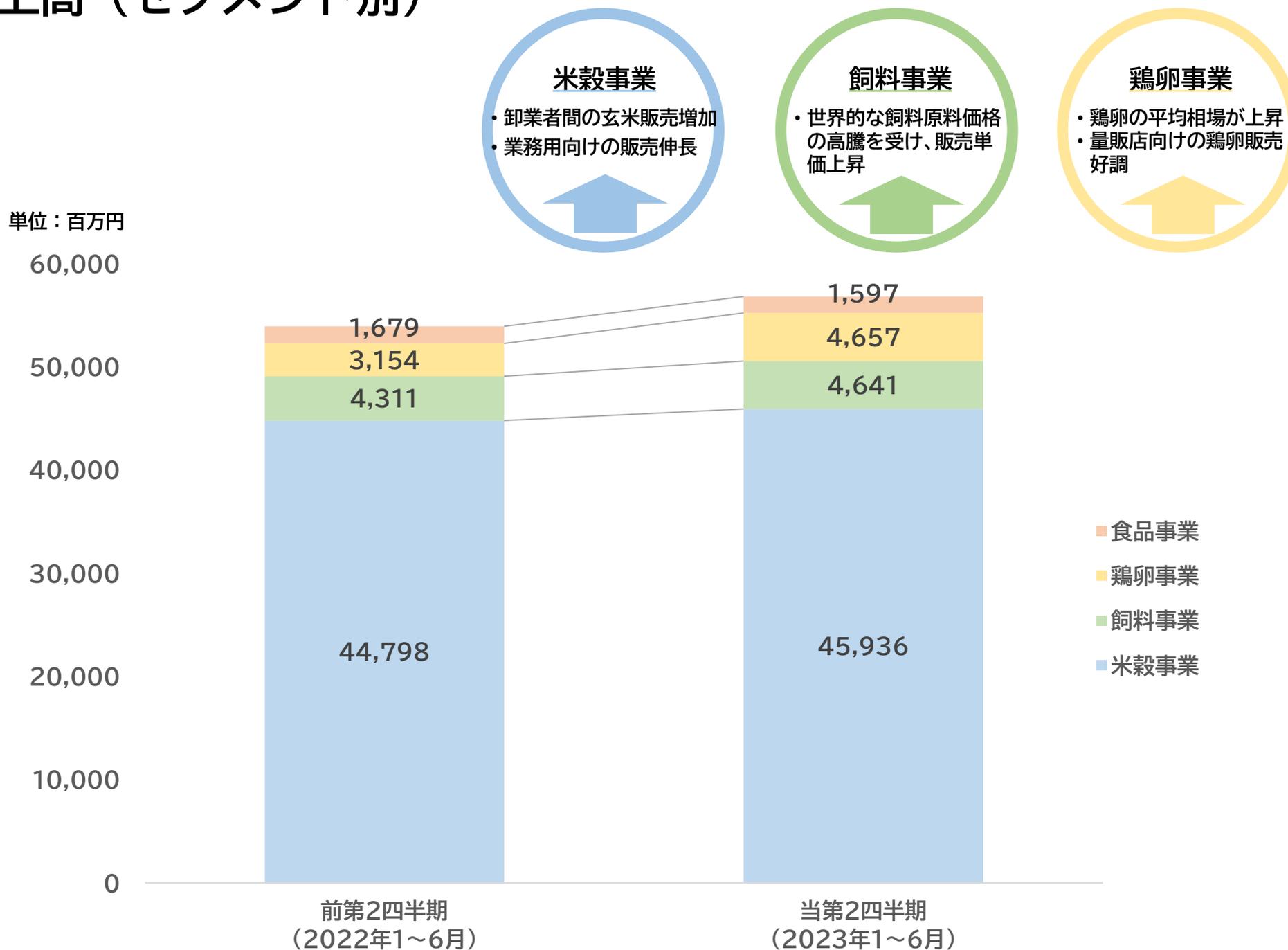
決算ハイライト (P/L)

増収・増益

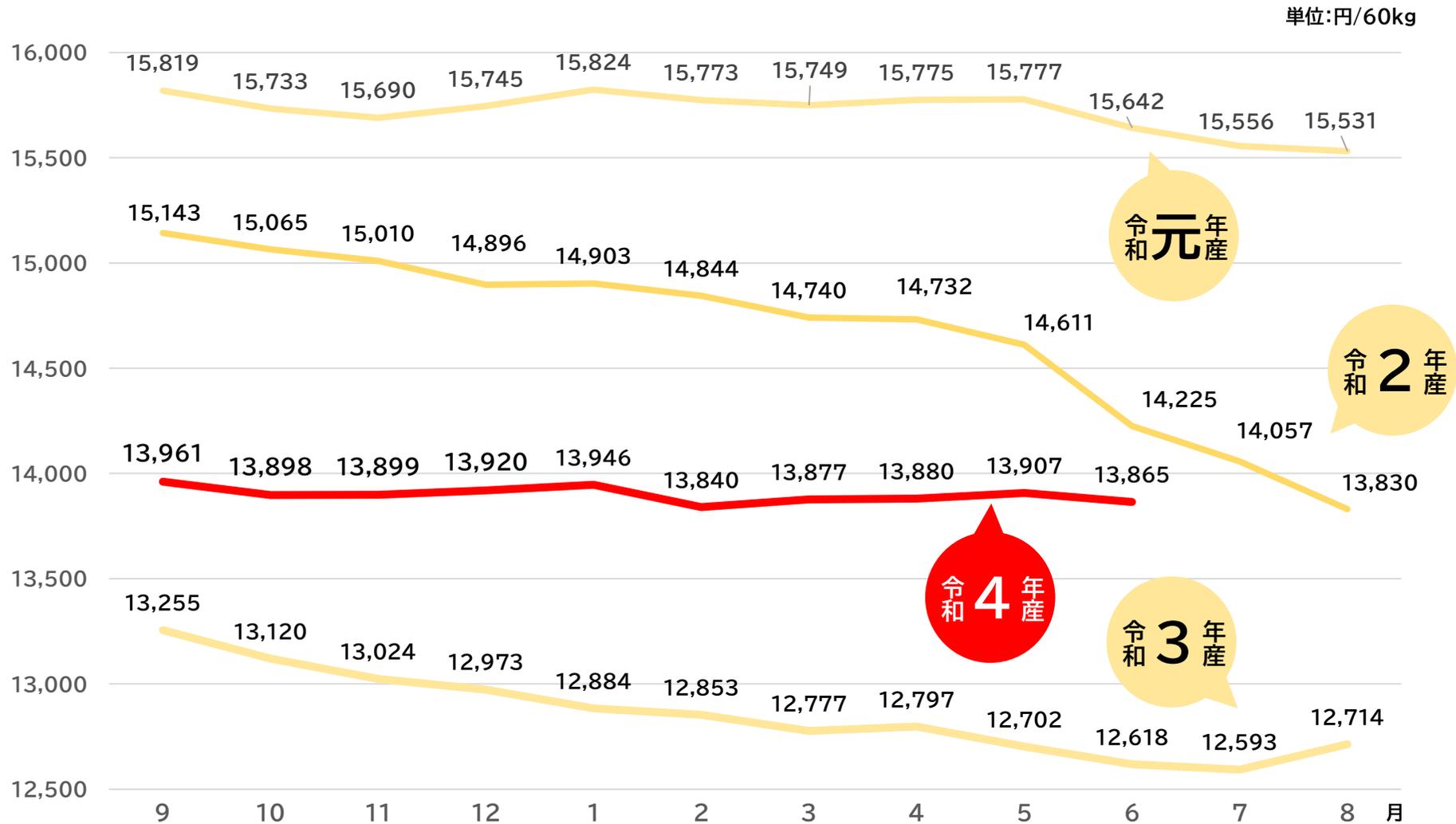
単位：百万円

	前第2四半期 (2022年1~6月)	当第2四半期 (2023年1~6月)	増減額	前年同期比
売上高	53,944	56,833	+2,889	105.4%
売上総利益 売上比	3,568 6.6%	4,290 7.5%	+722	120.2%
販売費及び一般管理費 売上比	2,757 5.1%	2,931 5.2%	+174	106.3%
営業利益 売上比	810 1.5%	1,359 2.4%	+549	167.8%
経常利益 売上比	831 1.5%	1,430 2.5%	+599	172.1%
特別損益 売上比	199 0.4%	△1 -	△200	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益 売上比	708 1.3%	980 1.7%	+272	138.4%

売上高（セグメント別）



コメの相対取引価格の推移



注: 1. 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれる。
2. 相対取引価格は全銘柄平均価格であり、産地銘柄ごとの前年産検査数量ウエイトで加重平均した価格。

販売数量（米穀事業）

単位：千トン

250.0

200.0

150.0

100.0

50.0

0.0

前第2四半期
(2022年1~6月)

当第2四半期
(2023年1~6月)

206.5

196.0

73.2

56.3

84.8

85.4

48.6

54.2

- 精米(外国産)
- 精米(国内産)
- 玄米(国内産)

精米(外国産)

- ・ミニマム・アクセス米の取扱数量が減少

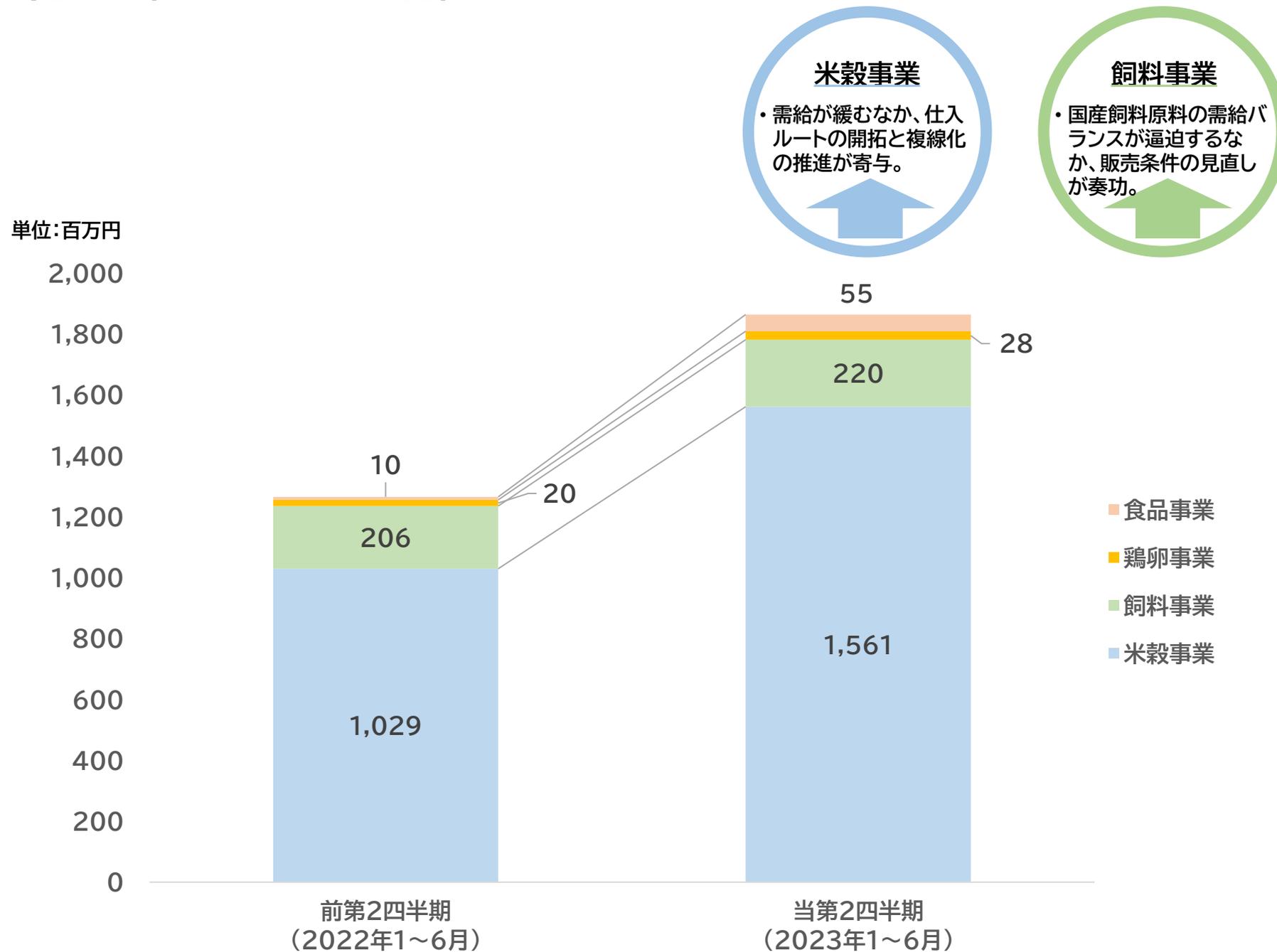
精米(国内産)

- ・業務用向け精米の販売伸長

玄米(国内産)

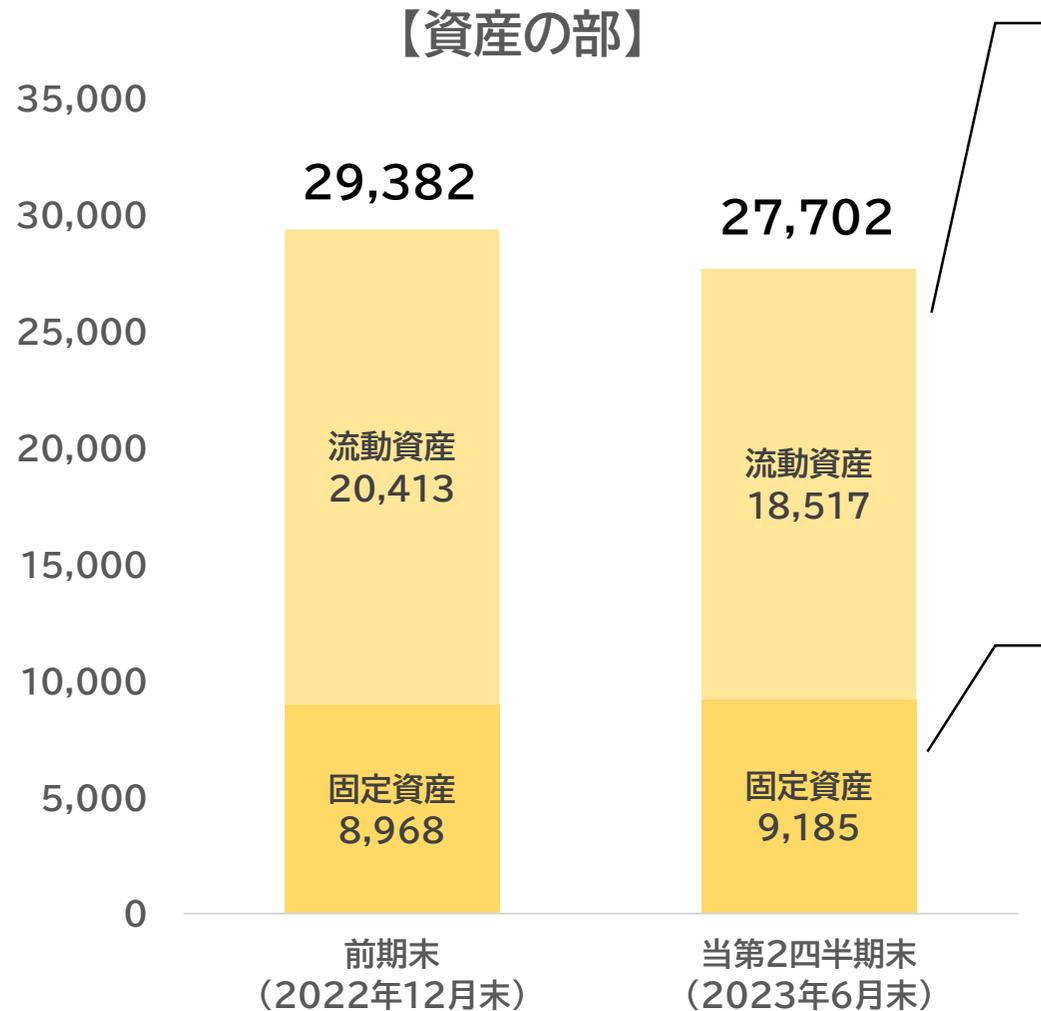
- ・卸業者間の玄米販売増加

営業利益（セグメント別）



資産、負債及び純資産の状況（1）

単位:百万円



流動資産 $\Delta 1,896$

たな卸資産 $\Delta 1,404$

前渡金※ $\Delta 246$

未収入金 $\Delta 213$

現金及び預金 $+347$

※要因は主にミニマム・アクセス米に係る取引によるもの

固定資産 $+217$

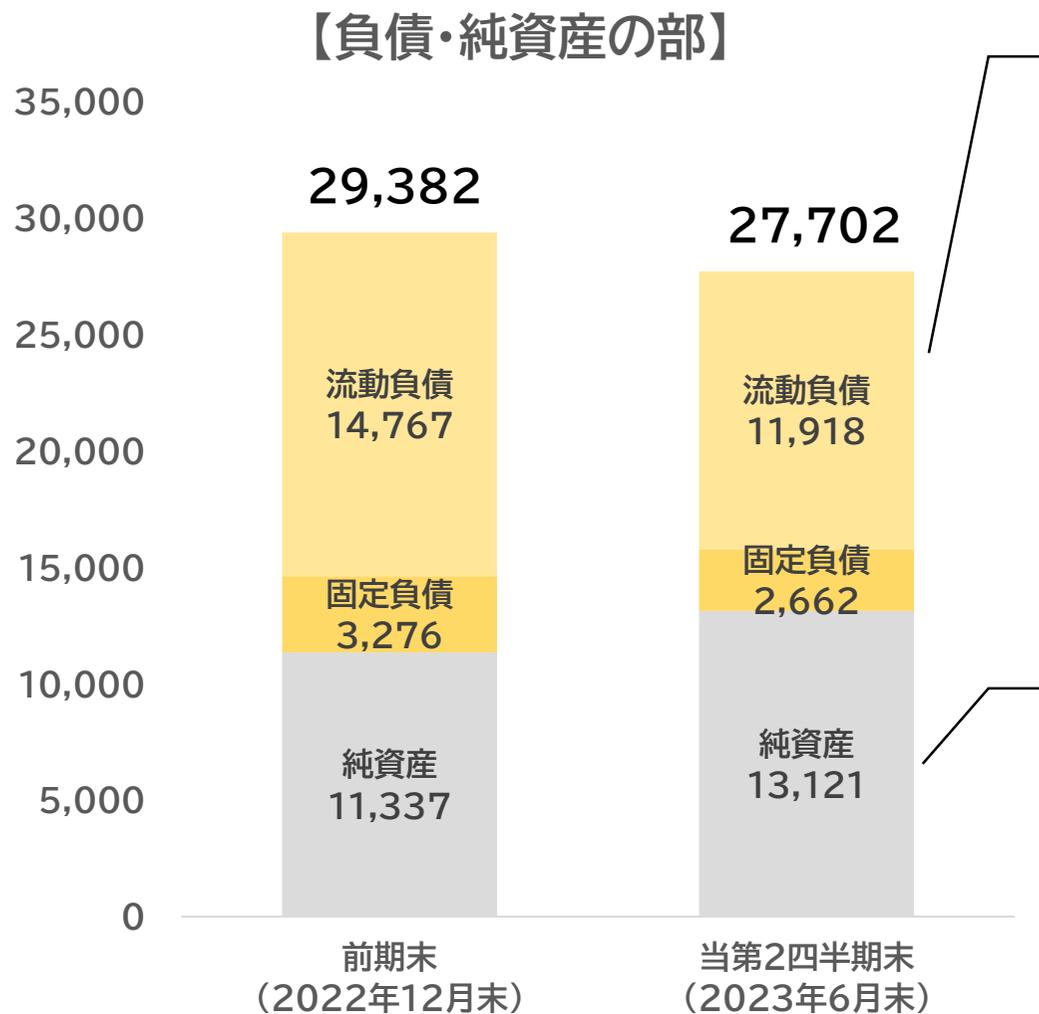
投資その他の資産 $+363$

有形固定資産 $\Delta 129$

無形固定資産 $\Delta 18$

資産、負債及び純資産の状況（2）

単位:百万円



流動負債 $\Delta 2,849$

支払手形及び買掛金 $\Delta 1,194$

短期借入金等(※) $\Delta 1,027$

未払金 $\Delta 427$

未払法人税等 $+97$

(※) 1年以内返済予定の長期借入金を含む

固定負債 $\Delta 614$

長期借入金 $\Delta 922$

繰延税金負債 $+323$

決算ハイライト (B/S)

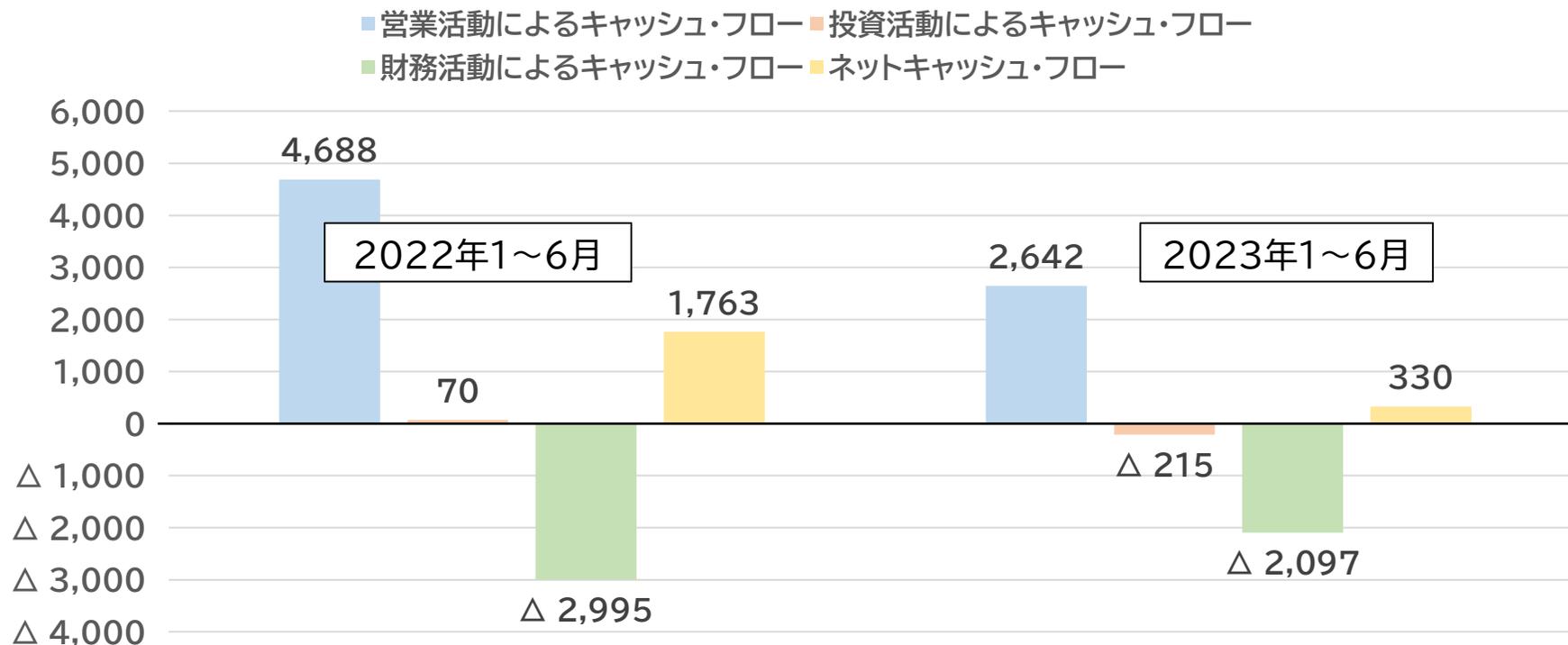
	前期末 (2022年12月末)	当第2四半期末 (2023年6月末)	増減
総資産(百万円)	29,382	27,702	△1,680
純資産(百万円)	11,337	13,121	+1,784
自己資本比率	37.5%	46.1%	+8.6
1株当たり純資産(円)	6,804.36	7,876.63	+1,072.27

(参考)自己資本:2022年12月末 11,024百万円、2023年6月末 12,761百万円。

決算ハイライト (C/F)

単位：百万円

	前第2四半期 (2022年1~6月)	当第2四半期 (2023年1~6月)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,688	2,642	△2,046
投資活動によるキャッシュ・フロー	70	△215	△285
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,995	△2,097	+898

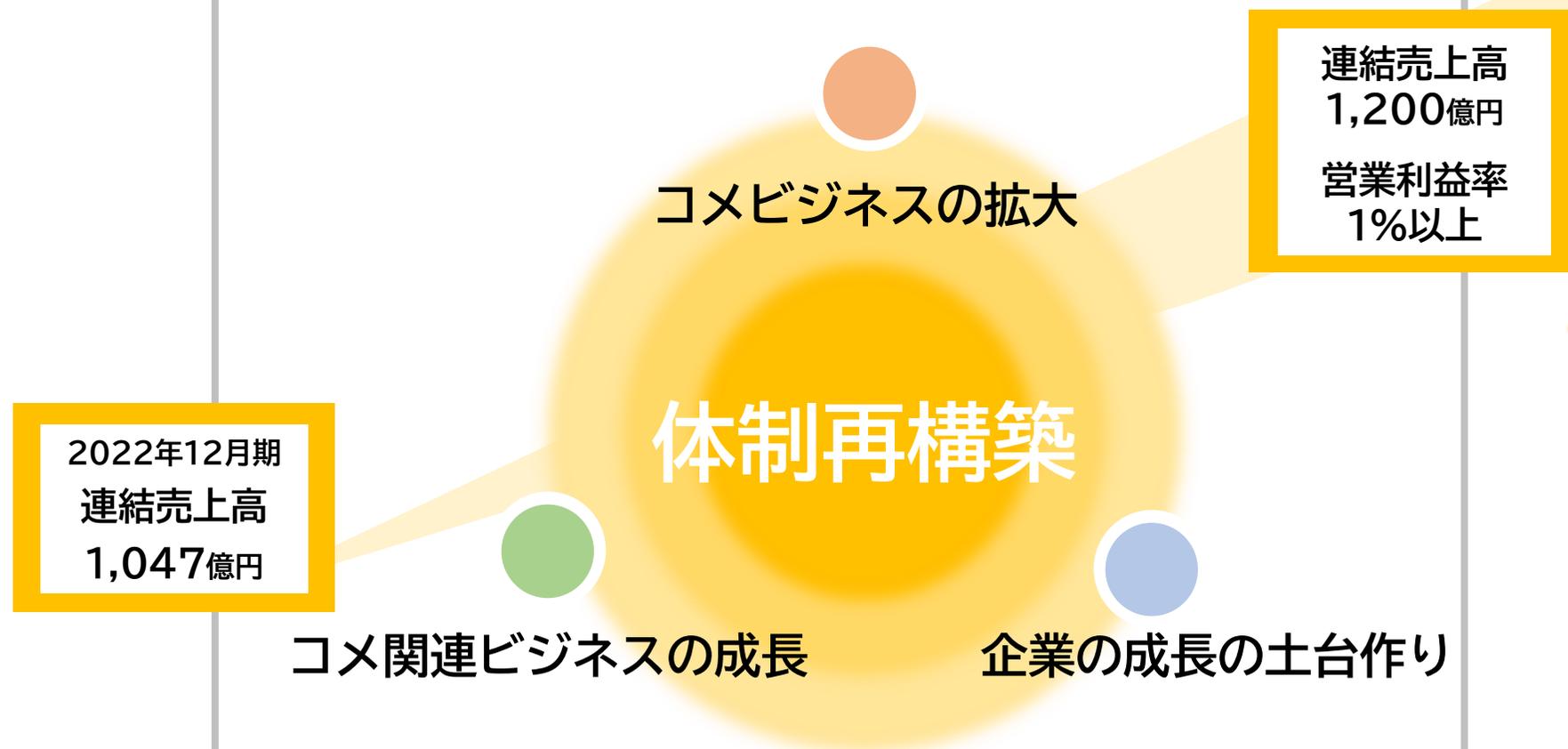




当第2四半期までの取り組み



2023年 → 2025年



事業規模・事業領域の拡大に向けた体制再構築の期間と定義し、
収益体制を作りながら成長を図る

1

コメビジネスの拡大

事業規模の拡大に向けた継続的な取り組みの強化と 新たな取り組みへの着手

家庭用・業務用など業態ごとの 需要に応じた仕入戦略を実施

安定
調達

全農との協力体制の強化
(取扱数量の確保)



機動
調達

仕入ルートの複線化
(業態ごとの需要に対応)



独自
調達

多収穫米

令和5年産米
7,600ト集荷予定※
令和6年産米
10,000ト集荷目標



※2023年6月時点

米粉商品を拡充し、 ビジネスの拡大を図る

業務用



業務用米粉は現行どおり当社新潟製粉工場で製造

家庭用



新
開発中

※上記写真はイメージ画像

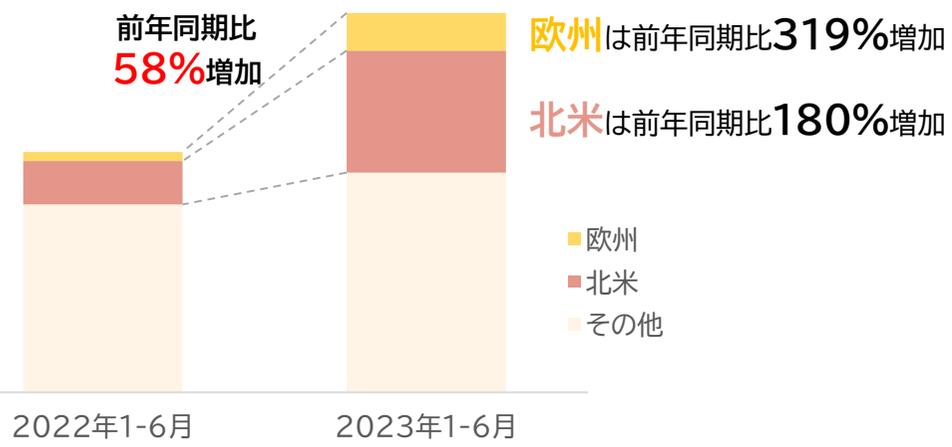
新たに家庭用向け米粉商品の開発をスタート
家庭用チャンネル進出に向けた準備が進行中

日本産米の輸出強化およびタイ香り米の国内販売強化

日本産米の輸出強化

世界的な中粒種の不足を追い風に
欧州・北米向けの輸出を強化

日本産米の輸出数量実績の推移



日本産米の輸出量は前第2Qと比較して58%増加
なかでも、欧州と北米向けの輸出量の増加が顕著

タイ香り米の国内販売強化



復活したイベントを活用し、
試食や対面提案でファン増加を図る



東京・大阪・名古屋・福岡・仙台
全国でタイフェスティバル開催



「タイ料理のタベ」を
タイ王国大使館で開催



左: シントン・ラーピセートパン駐日タイ王国大使
右: 当社平山会長

関連会社の体制と環境を整備し、事業規模拡大に向けた施策を推進

経営陣が訪中し、合併企業・協力企業との結束を強化



木徳(大連)貿易有限公司の事務所をリニューアル
オープニングセレモニーに当社経営陣が参加



中糧集団(COFCO)との関係をより一層強化し、
ビジネス拡大を目指す

アンジメックス・キトク有限会社の 経営体制を見直し、新たな飛躍へ



写真右:龍神新社長
写真中央:永瀬新工場長



ホーチミン事務所を移転

キトク・タイランド会社の 事務所移転及び職員の増員を計画



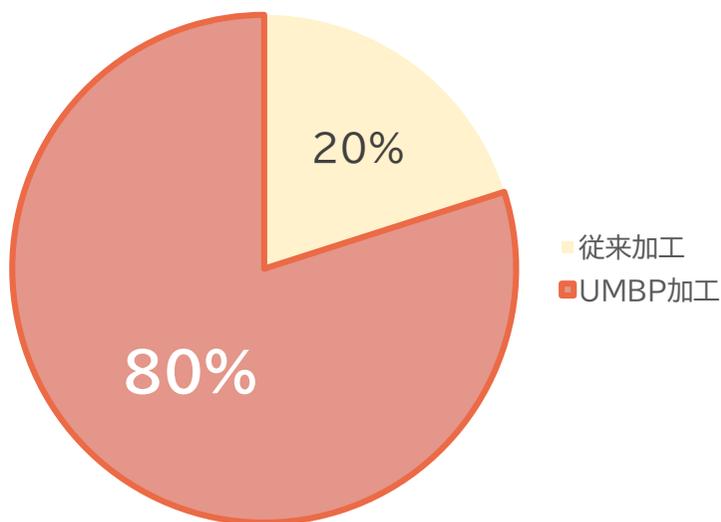
ビジネスインフラを再構築し、販売拡大のための基盤を強化する

※ 新しい無洗米方式(UMB[※]P)の稼働が本格化 品質を向上しつつ環境負荷とコストの低減を実現

※UMB[※]P(ウルトラマイクロバブルプロセス)・・・お米の表面を傷つけないよう直径1μm未満の超微細な泡で米ぬかを取り除く新たな無洗米加工方式

岡山工場 UMB[※]Pが本格稼働

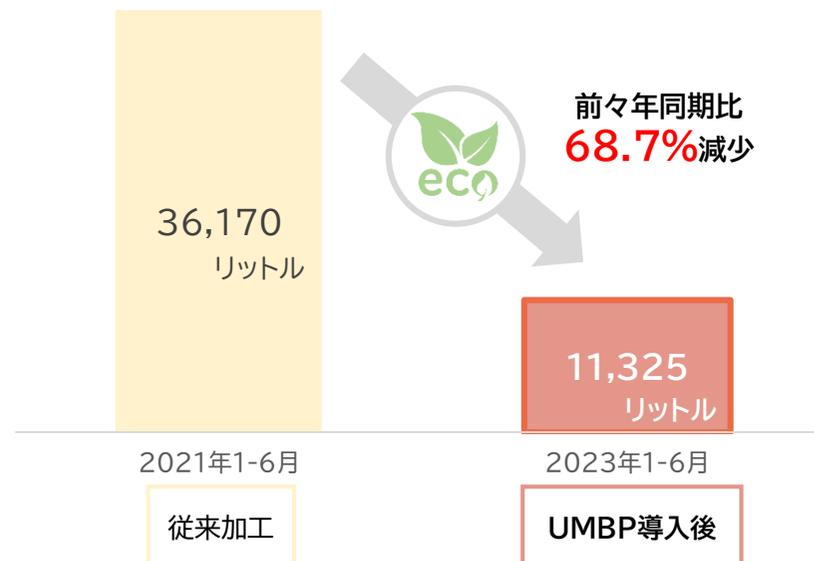
岡山工場の無洗米加工におけるUMB[※]P比率



※2023年1～6月実績比率

化石燃料の使用量が減少

岡山工場における化石燃料の累計使用量



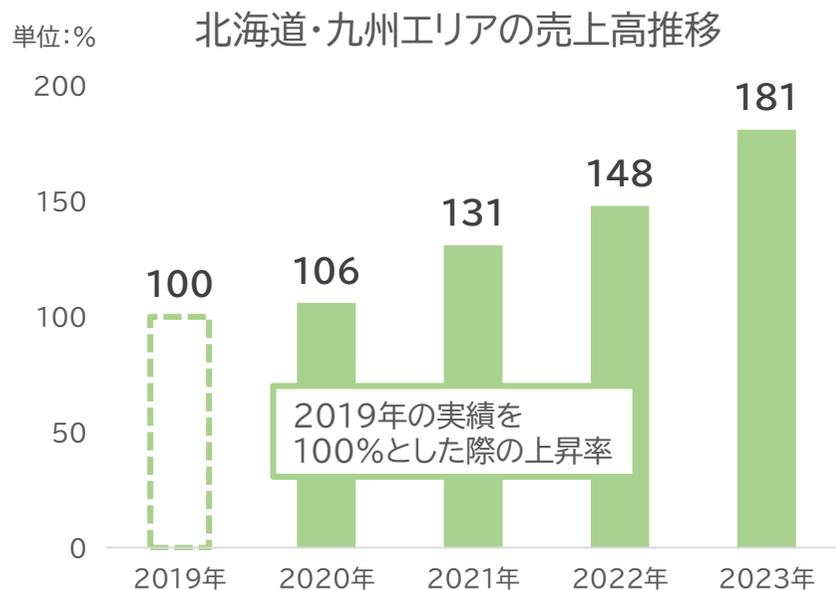
前第4Qに桶川精米工場にも同設備を導入し、
削減効果が出始めている

2

コメ関連ビジネスの成長

飼料事業において伸長する北海道・九州エリアへの販売拡大と 飼料用米の取り扱い強化

牛の飼育頭数が増加する
北海道・九州エリアでの販売を拡大



※上記グラフは該当する年の1～6月の累計実績を基に作成しております。

飼料用米の取り扱いを強化



※上記グラフは該当する年の1～6月の累計実績を基に作成しております。

完全子会社であるキトクフーズ株式会社を吸収合併

経営資源やノウハウの融合によるシナジー効果の最大化を目指し、
原料調達力や製品開発力の強化、営業販売のレベルアップと標準化の促進を図る。

(合併期日:2024年1月1日予定)



※画像はキトクフーズと協力して実施している従業員への朝食(たまごかけごはん)提供の様子

3

企業の成長の土台作り

組織改革を伴う全社的な業務の合理化・効率化を積極的に推進

人員と機能を集約し、
生産の効率化を図る



建築から
50年以上経過

設備の
老朽化

本牧工場

2023年8月31日をもって本牧工場(神奈川県)を閉鎖し、
人員と生産機能を桶川精米工場(埼玉県)へ集約



桶川精米工場

関東圏の工場を
1つに集約することで…

- ✓ 生産の効率化
- ✓ コストの削減

重複業務を見直し、
全社的な業務の合理化を徹底



管理部門の一部であった事務担当部署の業務を整理、
機能を米穀部門に組み込み、会社全体での合理化を推進

人的資本への投資を強化し、
従業員のモチベーションとエンゲージメント向上を図る

全役職員へのおコメ無償配布
『ありがとう米』キャンペーンを実施

特別企画
おこめがもらえる
140周年 KITOKU SHINRYO
ありがとう米
沢山食べて
全員で次の10年を作ろう!

創業140周年を記念し、全役職員を対象とした
おコメ無償配布のキャンペーンを実施

若手社員を対象にした研修会および
経営陣と直接対話する交流会を実施



経営陣とのテーブルトーク



お米の銘柄当てクイズ



経営陣への質問コーナー



外部講師によるスキルアップ研修

経営陣とのコミュニケーションや研修等のイベントを実施し、
従業員のスキルアップとモチベーション向上を目指す

社会貢献活動について

広域米穀卸として地域社会への貢献と 子どもたちの健やかな成長のための支援を継続

埼玉県の子ども食堂にパックご飯を支援



埼玉県内の子ども食堂への支援および地域社会や企業等との連携を
目的に設立。2022年11月末現在182カ所※の団体が加盟。

『埼玉県子ども食堂ネットワーク』を介し、
桶川精米工場の近隣14カ所の子ども食堂へ
パックご飯約1,900食を提供。(2023年6月)

北九州市の子ども食堂にお米を支援



左:北九州市 大庭千賀子副市長
右:当社執行役員九州支店長 鈴木敬夫

2023年5月から12月までの8カ月間、
北九州市内の約50カ所の子ども食堂に
合計4,000kgの福岡県産『夢つくし』を提供。



注意事項

本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。

本資料は、2023年8月4日現在のデータに基づき作成しております。

【お問い合わせ先】

木徳神糧株式会社 社長室

TEL:03-3233-5125 Email:ir@kitoku-shinryo.co.jp

URL <https://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

